

## 越谷市内の暗橋①「9590橋（蒲生橋）」

秦野 秀明

### 暗橋①「9590橋（蒲生橋）」

はじめに

高山 英男・吉村 生（二〇二二）<sup>(1)</sup>によれば、「元々、水が流れていた川や水路、その流れを地下に移してしまったもののことを暗渠（あんきよ）という」と説明がなされ、「単なる川跡・水路跡も含めて暗渠と呼んでいる」と「暗渠」の定義がなされています。

その上で、「その暗渠に架かる、あるいは架かっていた橋がある。それを「暗橋（あんきよ）」と呼ぶことにしよう」と「暗橋」の用語と定義を提案されています。

今回、高山 英男・吉村 生（二〇二二）<sup>(1)</sup>により提案されている「暗橋」という用語と定義を引用して、越谷市内における代表的な「暗橋」の例を、いくつか紹介致します。

「旧・出羽堀」の最下流は、「綾瀬川第1号雨水幹線」に転用され、その際の「暗渠」化により「越谷市道90299号線」の「暗橋」となったのが、橋梁名「9590橋（9590バシ）」<sup>(2)</sup>です。橋梁名「9590橋」として「暗橋」となった時期は「不明」<sup>(2)</sup>ですが、「旧・出羽堀」の「暗渠」化に伴い「暗橋」となった来歴が推定可能です。

加藤 幸一（二〇二二）<sup>(3)</sup>において、「9590橋」は、「出羽橋」（現在の蒲生橋）と記載されており、現在も「親柱（おやばしら）」に「がもうばし」と記されていますので、「蒲生橋」という名称が確実に存在した時期がありました。

「暗渠」である「綾瀬川第1号雨水幹線」は、「暗橋」である「9590橋」のすぐ下流側で、「開渠（かいきよ）」である「準用河川蒲生愛宕川」に合流しています。

加藤 幸一（二〇二二）<sup>(3)</sup>によれば、この二つの

「流路」が合流する位置関係は、「綾瀬川第1号雨水幹線」に転用される以前の「旧・出羽堀」と、「準用河川蒲生愛宕川」に転用される以前の「旧・四ヶ村（しかそん・しかむら）用水」の位置関係と同じになります。

「開渠」である「準用河川蒲生愛宕川」が流れる「9590橋」の「東北東側」、つまり「下流側」から望みますと、橋梁形式である「RC（鉄筋コンクリート）のボックスカルバート（函渠（かんきよ））」であることがはっきりと認識出来ますので、正確に云えば「9590橋」は、「上流側」である「北西側」から望めば「暗橋」であり、「下流側」である「北北東側」から望めば「暗橋」ではない、云わば「半暗橋（はんあんきょう）」のような状態になっています。

現在は「開渠」である「準用河川蒲生愛宕川」も、「綾瀬川第1号雨水幹線」の合流地点のすぐ「上流側」は、以前より「暗渠」となっていますので、「暗渠」から「開渠」へ移行する合流地点より「下流側」も今後において「暗渠」化され、「9590橋」が真の意味での「暗橋」となる日もそう遠くないのでは

ないでしようか。

### 結びに変えて

- ① 橋梁名「9590橋」が、「暗橋」となった時期は「不明」ですが、「旧・出羽堀」の「暗渠」化に伴い「暗橋」となった来歴が推定可能です。
- ② 橋梁名「9590橋」は、「出羽橋」や「蒲生橋」と呼ばれた時期もありました。
- ③ 橋梁名「9590橋」は、正確に云えば「半暗橋（はんあんきょう）」のような状態になっています。

### 注

- (1) 高山 英男・吉村 生（二〇二三）

『暗渠で楽しむ東京さんぽ』

暗橋にかかる橋から見る街』

実業之日本社

高山 英男氏、吉村 生氏には、「暗橋」の用語の使用許可を頂きました。

この場を借りて御礼申し上げます。

(2) 「越谷市 橋梁リスト(令和3年4月時点)」

越谷市

No. 435

橋梁名 9590橋

フリガナ 9590バシ

所在地 越谷市蒲生愛宕町439番地先

路線名 (越谷) 市道90299号線

架設年次 (年) 不明

橋梁形式 RCボックス(カルバート)

橋長 (m) 5.00

幅員 (m) 4.00

(3) 加藤 幸一(二〇二二)

「古絵図に見る四ヶ村用水と谷古田用水

(五ヶ村用水)」

<http://koshigayahistory.org/>

220916\_shikason\_yakota\_k\_k.pdf



撮影：2022年9月18日 西より望む

撮影：2022年9月18日 西北西より望む



撮影：2022年2月24日 東北東より望む



撮影：2022年9月18日 南西より望む



撮影：2022年9月18日 南より望む

